

本当に避難できるのか

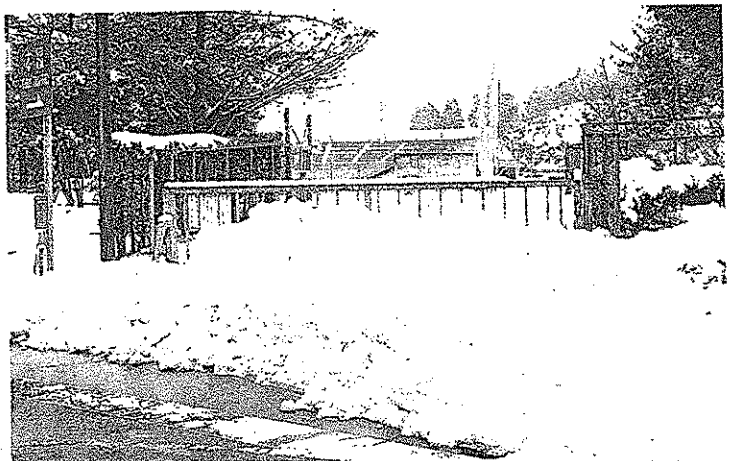


関西電力高浜原発（高浜町）から南西に百二十キロ離れた兵庫県宝塚市の体育施設。国の広域避難計画では、高浜原発で重大事故が起きた場合に、町民の県外避難先の一つになっている。だが、3号機の再稼働を控えた二十一日に訪ねると、管理者の男性は首をかしげた。

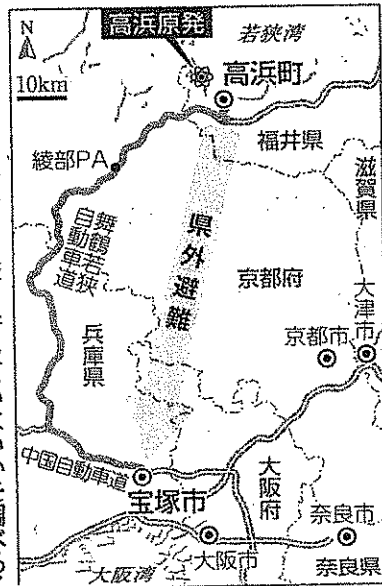
「市からこの施設が避難先であるとは聞いていません」。町民を受け入れた場合に提供する食料の備蓄もないという。

高浜原発の広域避難計画は、三十キロ圏の福井県と滋賀県、京都府の計十二市町。十七万九千人が対象だ。避難先も兵庫、徳島など四府県五十六市町と広範に及ぶ。関係する自治体が

机上の空論



スクリーニング検査が行われる綾部パーキングエリアからあやべ球場に通じる道は、雪で埋もれていた=21日、京都府綾部市で。



IV 広域避難計画 福島の原子力防災会議で了承された。広域の計画は先に再稼働した九州電力川内原発（鹿児島県）と、地元同意が済んでいる四国電力伊方原発（愛媛県）でも作られている。

島第一原発事故を受け、各原発から半径30キロ圏内の自治体に策定が義務付けられた。複数府県にまたがる避難計画は高浜原発が初めてで、昨年12月18日、

広域訓練めど立たず

食料や布団の調達は受け入れ先の各自自治体に任されていられる上、原子力の専門職員もいない。受け入れる側にも困惑が広がる。

原発事故が起きると、放射線量の実測値に応じて、国が屋内退避や即時避難の対策や範囲を決める。一斉に避難して混乱が生じないよう原発からの距離に応じた避難する「二段階避難」

宝塚市など兵庫県の自治体から車で避難する高浜町民は舞鶴若狭自動車道の綾部パーキングエリア（PA）に立ち寄り、放射性物質が付

多くの課題を置き去りにしたまま、関西電力高浜原発3号機が再稼働した。人々の安全と安心は確保できるのか。その先に何が待っているかを検証する。

宝塚市総合防災課の担当者は「（体育施設が）避難先に指定されているのは間違いない。管理者の認識が不足していた」と周知不足を認めながらも「関西広域連合や兵庫県から指示がない限り、市は何も判断できない。それはどこも一緒」。

射線量の測定値に応じて、国が屋内退避や即時避難の対策や範囲を決める。一斉に避難して混乱が生じないよう原発からの距離に応じた避難する「二段階避難」

着していないかを調べるスクリーニング検査を受けることになっているが、駐車スペースは詰めても五十台分ほどの広さしかない。

国の計画ではPAに収まらない車両は隣接する「あやべ球場」で検査を受ける。だが、PAから球場へ抜ける道は幅五メートルほどで、普段はゲートで仕切られて鍵がかかっている。検査を担当するのは福井県の職員で百五十キロ離れた県庁から駆け付ける。避難者より先にたどり着ける保証はない。

県危機対策・防災課の担当者は「県内の避難先もあ

り福井側の避難者すべてが綾部PAを使う想定はしていない。その時々、情勢に応じて決める」と臨機応変な対応を強調した。

避難経路となる舞若道と国道27号は大半が片側一車線だ。「海水浴の時期ですら渋滞するのに、円滑に避難できるはずがない」。高浜原発から四キロ離れた高浜町小和田の農業東山幸弘さん（68）は、以前から町議会に請願を出すなど避難計画の実効性に疑問を抱いてきた。「避難計画は再稼働に間に合わせるために役人が無理やり作った机上の空論。現実には即していない」と批判する。

丸川珠代・原子力防災担当相は高浜3号機が再稼働した二十九日の会見で「緊急時対応についても、引き続きより一層の緊張感を持って備えをしたい」と述べるが、三府県の避難訓練の開催めどは立っていない。

（平井孝明）